

中川正春の 永田町かわら版

2023/2/1 第388号

○通常国会始まる。課題山積。

国会が始まりました。

子ども子育て政策は「これまでとは次元の違うレベルで取り組む」と総理の所信で表明されました。私たちがかねてから主張してきた「チルドレン・ファースト」が、今やっと、危機感をもって政府の最優先の課題に浮上してきたということです。具体策の中で、所得制限のない子ども手当や大学までの教育の無償化などを本気で考えていくなら、増税で捻出される財源は、防衛費より子ども子育て予算の倍増が優先されることです。防衛予算増税の隠れ蓑が、子ども子育て政策予算であってはなりません。

経済も政策転換が必要です。アベノミクスは間違っていた、という基本的な認識の共有。その上で、物価の上昇以上に賃金を上げられるのか。大手企業だけでなく、下請け関連などの中小企業、低賃金が問題になっている福祉関連従事者や派遣、パートタイマーなどと同時に年金生活者など、生活者の大部分に所得の上昇が実現できることが必須です。今のままでは、実現不可能。更なる底上げ政策が必要です。

エネルギー政策についても、政府は国会の議論なしに、大きな転換を目指しています。これまで、新規の原発は作らない前提であったのが、政策転換され、新たな建設が模索されようとしています。トータルなエネルギー計画を再構築することなく、新規原発に突き進むことは、国民合意は得られない。国会での厳しい議論となります。

統一教会、政治と宗教に関連する議論は、まだ終

われません。文化庁の調査結果に基づいた、統一教会の解散の是非、自民党を中心とした政治家、特に細田衆議院議長などとのズブズブの関係などの事実関係を掘り下げた上で、政治と宗教の関係の整理をする必要があります。

安全保障も重要課題です。総理自身が戦後の安保戦略の大転換だという中身であるにも関わらず、これも国会の議論なしに、三文書の書き換えがなされてしまいました。先にアメリカから言われた、国防予算をGDP 1%から2%に上げることの是非が論じられ、そのことを前提に、敵基地攻撃能力を保持するためにアメリカからトマホークを買う約束をして、スタンドオフミサイルなどの開発や宇宙・サイバーなどの課題が出てきました。このまま行けば、国防予算では、日本は、世界第3位の軍事大国になります。これを増税で賄うことが許されるのか、平和主義を貫いてきた日本の正念場です。改めて冷静に、日本の平和主義の原則を守ることを確認し、超大国の思惑に翻弄されない強さが必要だと思っています。

国会対応で、維新と連携していく方針となりました。巨大な政府与党に対し、野党間で協力できるものについては、足並みをそろえることは大事です。国防予算倍増のために増税を目論む政府の姿勢は、許せない。まずは「防衛増税反対」から連携です。これから先の日本の国の形の根幹を問う重要な国会になります。間違いのない議論をすること。頑張ります。

○各地区で懇談会を開催

各地区で懇談会を開催しています。日頃ニュースを耳にされる中で、おかしいなあと思われたことや、あるいはどういう意味と疑問に思われていることなど、皆さんの声をたくさんお聞かせください。

日時・場所など詳細は、鈴鹿事務所までお問い合わせください。地区外からのご参加も大歓迎です。

皆様のご参加、お待ちしております。

